

10 大学公開と広報

10.1 公開講座

1 公開講座の実施状況

本学では、一般公開講座、現職教育講座、教員研修センター共催講座の3種類の公開講座を実施している。平成14年度においては、一般公開講座27、現職教育講座（教員研修センター共催講座1件を含む）27の合計54講座を実施した。

一般公開講座については、スポーツ教室11、芸術教室5、園芸教室1、健康・保健教室1、教養講座9の計27講座で、941人の募集に対して935人の応募があり、その内782人が各講座を受講し、710人に対して修了証書を授与した。現職教育講座（教員研修センター共催講座1件を含む）については、27講座1,263人の募集を行い、2,011人から応募があり、その内1,790人が受講し、1,723人に対して修了証書を授与した。

2 公開講座委員会の活動

公開講座委員会では、平成12年度以降、国立大学の公開講座実施経費が大幅に削減されている状況を踏まえ、平成14年度の全体計画の立案に当たり、同じ講座の実施は原則として年1回とする、毎年実施している講座については、最近2回の受講者が募集人員の8割に達していない場合は、収支の均衡がとれている講座を除き、隔年実施とするか又は今後数年の間実施を見合わせる、公開講座の講師は本学教官が担当する、1講座当たりの実技指導員や補助員を必要最少限とする、小・中学生を対象とする体験学習の講座開設を検討することなどに留意し、厳しい財政状況等に対応した。

3 自己評価と課題

本学の開学理念として、大学公開は、教育、研究と並ぶ三本柱であり、その中でも公開講座は、直接的な社会貢献として重要な位置付けを持っており、開設講座数や受講者数において他の国立大学の追従を許さない実績を挙げてきた。周辺地域及びそれ以外の地域住民から、講座の内容や開設時期等についての問い合わせが多数あり、さらに、近隣市町村教育委員会等から共催による講座開設の要望及び市町村独自の講座への本学教官の協力要請も多い。これらのことは、本学の公開講座活動が地域社会に定着し、同時に高い評価を得てきたことを表している。

現在の一般公開講座は、スポーツ・芸術等の継続されている講座に人気があり、また、公開講座委員会の要請による現代的課題についての講座も、開催数の増加と内容の充実が図られてきた。今後は、さらに受講者の要望を踏まえて、内容的に広範で、より多様なレベルの講座を開設するため、これまで講座の開設が困難であった学群・学類においても新講座開設を実現する必要がある。また、民間のカルチャーセンター等と競合しない“筑波大学の公開講座”の特色を強く打ち出すとともに、講座内容、募集方法及び開催時期の見直し等により、存在意義や価値を高めていくことが重要である。

本学の人材と充実した施設を活用して広く社会に貢献するために、公開講座の一層の充実を図る必要がある。そのためにも、生涯学習の一翼を担う公開講座に対する認識を喚起し、公開講座担当教員に対する教育業績評価を積極的に行う方向で検討することが望まれる。

10.2 大学会館事業

大学会館は、「本学の職員及び学生の教養を深め、相互の親密なる交流の場として機能するとともに、内外の大学その他の研究機関及び地域社会等との交流に供すること等により、学問の進展及び地域文化の向上に寄与すること」を目的として設置されており、この目的を達成するため、次の業務を実施し、会館施設を学会等の利用に供した。

(1) 大学会館主催事業（音楽関係3回、映画関係5回）を実施した。

(2) ホール、講堂、会議室、展示場等は、大学行事（式典等）、大学主催・共催行事（国際会議等）、学会、シン